

精魂込めて



6月8日、「子どもたちの安全を共に守る」を考える日。

2001年、当時私は川之江南中学校から北中学校へ転勤して1年目、学級担任をしていました。そして、この年の6月8日、この日に学校の在り方について深く考えさせられる、忘れることのできない出来事がありました。保護者の皆様の中にも、その記憶が心に残っている方がいらっしゃるのではないのでしょうか。

6月8日は、大阪教育大学附属池田小学校において、外部から侵入した者により、子どもたちの尊い命が奪われた日です。この出来事は、「学校は安全である」という当たり前を、改めて見つめ直す大きな契機となりました。私たちは、この日を風化させることなく、子どもたちの安全について考え続けていくことが大切だと考えています。

本校では、「開かれた学校であるとともに、外部からの侵入者を許さない学校」を目指して、次のような基本的な対策を丁寧に取り組んでいます。

・来校時の受付の徹底 ・校内の見守り ・施錠確認の徹底 など

しかし、最も大切なのは、一人ひとりの意識と、人と人とのつながりであるとも考えています。

● 保護者の皆様へ（家庭でできること）

中学生になると、行動範囲が広がり、自分で判断する場面が増えていきます。その一方で、「自分は大丈夫」と感じてしまうこともあります。そこで、ご家庭で次のようなことを話題にいただければと思います。

- ・知らない人に声をかけられたときの対応
- ・帰宅が遅くなるときの行動
- ・危険を感じた際の対処方法

学校の登下校以外では、イヤホンをしながらの移動やスマートフォンへの集中で、周囲への気づきを遅らせることなどが心配です。また、ご家庭だからこそ見える様子に、少し目を向けていただければ幸いです。

さらに大切なことは、子どもが安心して話せる関係を築いておくことです。「何かあったら話していい」「困ったときは頼れる」そうした安心感が、子どもたちの安全を支えます。

● 情報共有のお願い

日常の中で、「見慣れない人を見かけた」「通学路で気になることがある」など、お気づきの点がありましたら、どんな小さなことでも学校へお知らせください。その一つひとつの情報が、子どもたちの安全につながります。

ともに守る学校安全は、学校だけで守るものではありません。家庭・地域・学校が支え合いながら築くものです。子どもたちの「何気ない日常」を守るために、これからも共に見守っていきましょう。子どもたちの「いつもの一日」を守ること。それが、私たち大人にできる最も大切な責任です。